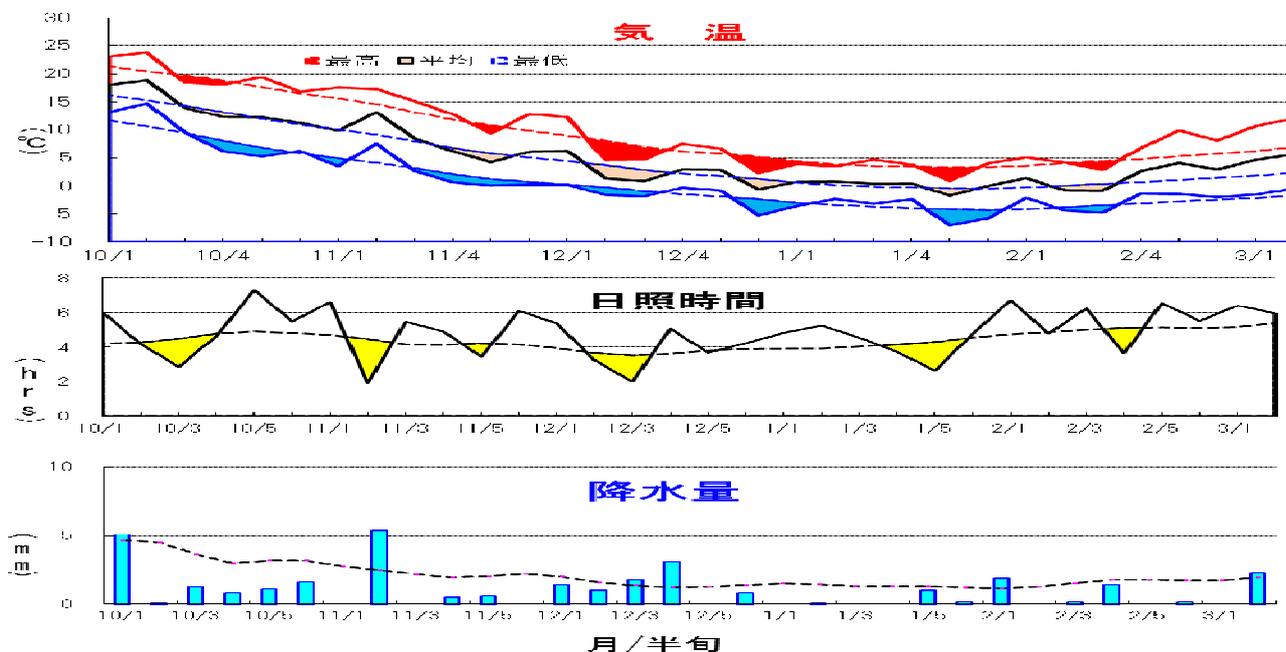


～H31年産良質麦生産に向けて!!!～

1 気象経過



累積降雪量				
2018年11月1日 - 2019年3月10日				
地点	本年 (cm)	平年比 (%)	平年 (cm)	前年(~27) (cm)
駒ノ湯	703	89	793	877
川渡	229	55	418	438
古川	106	61	174	210
石巻	21	44	48	60
新川	177	52	340	348
仙台	23	32	72	74
白石	30	30	100	107

月	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
1月	0.1	3.5	-4.1	7	133
平年差	0.2	▲0.1	▲0.3	▲35	5
前年差	1.1	0.8	1.5	▲60	4
2月	1.5	6.0	-2.7	18	156
平年差	1.0	1.4	0.6	▲25	16
前年差	2.7	2.9	3.6	▲7	▲5
3月上旬	5.2	11.4	-1.0	12	62
平年差	3.1	4.8	1.0	▲7	9
前年差	1.5	2.7	▲0.6	▲81	15

- ・ 11月～3月までの累積降雪量：いずれの地点も平年比30～89%でかなり少なかった。山間部は51～89%であったが、特に平坦部では30～61%と少なかった。
- ・ 10月：播種適期の平均気温は平年並～やや低かった。降水量はかなり少雨で平年よりも6.3mm少なかった。日照時間は、157時間で平年より15時間多照であった。
- ・ 11月：気温は平年より高く、降水量は少なく多照であった。
- ・ 12月：平均気温は平年より0.5℃ほど低く、降水量も少なかったが、日照時間はやや多かった。
- ・ 1月：気温は平年並み～やや低めで前年より高かった。降水量は少なく、やや多照であった。
- ・ 2月：平均、最高、最低気温とも記録的な高温傾向が続いた。

※エルニーニョ現象が昨秋から続いており、これによる春先までの高温が予想される。

2 生育状況

(1) 播種期と出芽状況（古川農業試験場）

- ・中甸区の出芽日数は、大麦で8日、小麦で7日と平年より1～3日短かった。
- ・下旬区の出芽日数は、大麦で13日、小麦で12～13日となった。

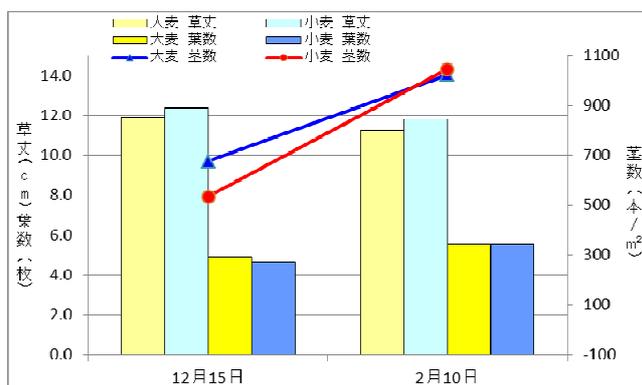
	品種・区分	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	出芽日数		
				本年	前年差	平年差
大麦	シュンライ 中甸	10/18	10/26	8	▲2	▲1
	同 下旬	10/29	11/11	13	0	-
	ミノリムギ中甸	10/18	10/26	8	▲2	▲1
	同 下旬	10/29	11/11	13	0	-
小麦	シラネコムギ中甸	10/18	10/25	7	▲4	▲3
	同 下旬	10/29	11/10	12	▲1	-
	夏黄金 中甸	10/18	10/25	7	▲4	-
	同 下旬	10/29	11/11	13	▲1	-

(2) 12月15日、2月10日現在の生育(古川農業試験場)

- ・適期である中甸播種や下旬も、平年より高温傾向で推移したため、生育量は多かった。
- ・2月10日現在の生育は、大麦・小麦ともに草丈・茎数・葉数ともに平年値を上回り、下旬区は、中甸区と比較して、草丈で60～80%、茎数と葉数は50～70%の生育量となった。
- ・特に茎数は、1,000本/m²を超え、下旬区でも中甸区の平年値を上回った。

[大麦と小麦の生育 (各品種平均)]

[2月10日 大麦と小麦の生育]



品種・区分	草丈		茎数		葉数		幼穂長		幼形期	
	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年差 (%)	本年 (mm)	平年差 (mm)		
大麦	シュンライ 中甸	14.1	135	1180	156	6.5	1.2	1.5	0.4	12/28
	同 下旬	8.4	-	855	-	4.3	-	0.7	-	
	ミノリムギ中甸	13.7	125	1201	149	6.5	1.3	1.3	0.3	2/4
	同 下旬	8.9	-	859	-	4.9	-	0.6	-	
小麦	シラネコムギ中甸	14.6	118	1490	173	6.8	1.3	0.4	0.0	
	同 下旬	11.7	-	975	-	4.9	-	0.2	-	
	夏黄金 中甸	11.3	-	1145	-	6.2	-	0.3	-	
	同 下旬	9.7	-	575	-	4.3	-	0.2	-	

(3) 12月15日、2月10日現在の生育(県内生育調査圃：普及センター一調)

- ・播種期は、平年より遅れたところが多く、10月～11月始めであった。
- ・年内の生育は、草丈茎数とも平年を上回ったところが多かったが、バラツキが見られた。
- ・2月10日の茎数は、一部を除き、大麦・小麦ともで概ね500本/m²を超えており、十分な茎数となっている。

品種・区分	地域	播種期		草丈		茎数		
		本年 (月/日)	平年差 (日)	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	
大麦	シュンライ	大河原	11/8	7	6.7	82	165	80
		桃生	10/20	▲1	12.8	122	546	202
	ミノリムギ	大河原	11/7	6	8.1	98	165	79
		桃生	10/19	▲3	15.2	130	420	163
	ホワイトファイバー	大和	11/3	-	10.9	-	196	-
小麦	シラネコムギ	古川	10/19	0	13.9	117	692	144
		鹿島台	12/3	30	-	-	-	-
	夏黄金	小船越	11/1	13	15.2	103	249	39
		涌谷	11/2	▲3	10.5	137	409	158

品種・区分	地域	草丈		茎数		幼穂長	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)		
大麦	シュンライ	大河原	5.8	71	287	85	-
		桃生	12.4	114	939	246	1.1
	ミノリムギ	大河原	8.9	113	530	181	-
		桃生	14.2	134	650	148	1.3
	ホワイトファイバー	大和	12.1	-	354	-	1.0
小麦	シラネコムギ	古川	9.1	85	664	92	0.4
		鹿島台	4.7	55	271	51	-
	夏黄金	小船越	14.1	108	518	63	0.0
		涌谷	8.1	95	607	181	-

3 今後の管理

(1) 麦踏

- ・生育が早まっているので、茎立ち前まで（主稈長約2cm，幼穂長2mm）に実施する。
- ・分げつが少ない圃場や過湿状態での麦踏は逆効果となるので注意する。
- ・茎立ち以降は生育が抑制されるので実施しない。
- ・茎数が充分ある圃場では徒長や早立ちの防止のため回数を多くする。

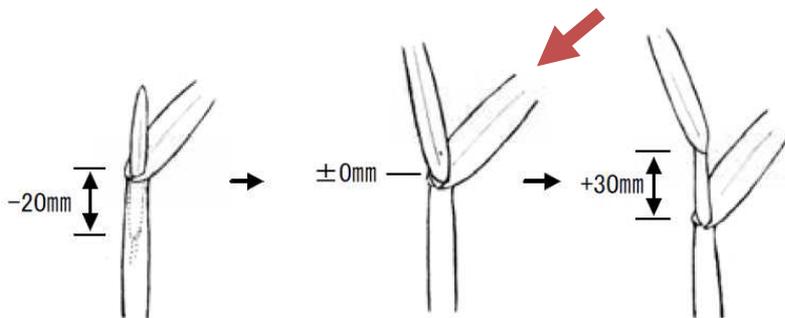
(2) 適期追肥

- ・今冬は雪が少なく，暖冬だったため，鳥害を受けている圃場が多いと思われる。
- ・地上部の食害が大きい圃場では生育促進のため窒素を追肥する。
- ・下表を参考にして，適切な追肥作業で高品質麦の生産に努める。

〔追肥の目安 N成分量 (kg10a)〕

種別	生育状況	起生期	幼形期	減分期	穂揃期
大麦	葉黄化「少」	1	2～2.5	2～2.5	-
	葉黄化「多」	2			
小麦			2.5	2.5～5	シラネコムギ 2.5
					夏黄金 5

※幼形期：幼穂長2～3mm，減分期：止葉葉耳間長+-0



(3) 排水対策

- ・圃場内の明渠が崩れている圃場では梅雨時期に備えて手直しをする。
- ・排水不良田では，葉の黄化や充分な茎数が確保できない。

